

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 南麻布保育園
施設所在地	東京都港区南麻布4-11-30 南麻布渋谷ビル2F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

全園児、音楽関係のイベントを行う度に時間を気にすることもなく集中して楽しむ姿が見られた。以前にかホンに初めて触れた子どもが「ただの箱みたいなのに音がして面白いね!」とつぶやいた。そのつぶやきから、音探しをするようになった。

2. 活動スケジュール

【音探し】

7月・・・乳児、幼児それぞれ本格的に音探しを始める。いろいろな音があることに気付く。

【楽器の音色に興味をもつ】

8月・・・音を探究しながら、楽器の音色にも興味を持つ。

クラスに楽器コーナーを作り、いつでも楽器に触れられるような環境設定を行う。

8月20日・・・わくわくライブ（1回目）

→鈴木楽器所属の演奏家が来園。様々な楽器の演奏を聴く。

【誕生会で保護者と一緒に楽器遊びを楽しむ】

月に1回、誕生会開催日を決めており、その月の誕生児の保護者を園に招待し、楽器遊びを行った。

→8/26、9/25、10/28、11/25、12/25、1/27、2/25、3/25

【パーカッションの音色を聴く】

8月29日・・・PPPライブ（1回目）

→パーカッション奏者が来園。様々なパーカッションの演奏を聴く。

【様々な楽器の音を聴く】

9月12日・・・おとのひろば

→20種類程度の楽器に触れ、様々な音の違いを楽しむ。

【動物の鳴き声を探しに音探しの遠足に行く】

10月3日・・・幼児が上野動物園に音探しに遠足に行く。

【全員で音を出して遊ぶ】

11月28日・・・わくわくライブ（2回目）

→鈴木楽器所属の演奏家が来園。新しく楽器を購入したものや既存の園にある楽器を一人1つ持ち、全員で演奏を楽しむ。

【演奏会を実施する】

12月13日・・・生活発表会で0歳児、幼児が演奏。

12月24日・・・クリスマス会後の音楽会でギター奏者と一緒に全園児が演奏。

【打楽器を全員で演奏する】

1月23日・・・PPPライブ（2回目）

【演奏会を実施する】

3月3日・・・ひなまつり会後の音楽会で沖縄三線奏者と一緒に全園児が演奏。

【全員での演奏会を企画中】

3月27日・・・お別れ会で全園児が演奏予定

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・各クラスにある楽器の選別
- ・楽器購入 (TONECHIM、なかよしリズムスタンド)
※TONECHIMは乳児にはむずかしいが、なかよしリズムスタンドにある打楽器類は0歳児から演奏できるので、いつでも活動ができるようにしている
- ・楽器コーナーの環境設定
- ・演奏者の発注 (鈴木楽器、PPP)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【音探し】

・壁を叩く、足を踏み鳴らす等、日常に出てくる音に対して保育者が子どもに「これも音だね！」等、声掛けを行い、子どもたちが身近に音が溢れていることに気付く。

【楽器の音色に興味をもつ】

・音を探究しながら、楽器の音色にも興味を持つ。

【誕生会で保護者と一緒に楽器遊びを楽しむ】

毎月の誕生会（クラスごと）では、誕生児と保護者に演奏しながらバースデーソングを歌う。

【パーカッションの音色を聴く】

・PPPライブ（1回目）でパーカッションにはいろいろな種類があることを知る。

【様々な楽器の音を聴く】

・わくわくライブ（1回目）で（コントラバス、キーボード、トーンチャイム、パーカッション）いろいろな音色を知る。
・おとのひろばでトーンチャイムやいろいろな打楽器に全園児が触れ、音を出す。

【動物の鳴き声を探しに音探し遠足に行く】

・動物の鳴き声も”音”つながりということで、幼児からのリクエストで上野動物園に音探しの遠足に行く。

【全員で音を出して遊ぶ】

・わくわくライブ（2回目）で、全園児が演奏者と一緒に演奏する。

【演奏会を実施する】

・生活発表会で0歳児、幼児が演奏する。
・クリスマス会後の音楽会でギター奏者と全園児と一緒に演奏する。
・ひなまつり会後の音楽会で沖縄三線奏者と全園児と一緒に演奏する。

【打楽器を全員で演奏する】

・PPPライブ（2回目）で、全園児が演奏者と一緒に演奏する。

【全員での演奏会を企画】

・お別れ会で、全園児が演奏する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

まずは音探しからのスタートであった。「これはきれいな音がするね！」「この音はなんか変だね！」等、幼児はいろいろな言葉が飛び交っていた。乳児は顔をかしげて不思議そうな顔をしていたり、言葉が話せる子は音の真似をしたりと楽しむ姿が見られた。保育者の言葉掛けに「サラサラ」、「バンバン」「トントン」とこちらが何も言わずとも「オノマトペ」が次から次へと発せられていた。音を探しているうちに楽器にも興味を示し、徐々に抵抗なく楽器を手にするようになっていった。そういう状況で、ライブを行ったため、子どもたちはライブ中は釘付けになり、無我夢中で鑑賞していた。2回目のライブでは、物怖じすることなく一緒に演奏していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取り組み前は日常に聞こえている音に対してあまり興味が無かったように感じる。音探しを行い、これも【音】なんだということに気付いたようであった。【音】がなるというところから楽器にも興味を持ち始めた。これも【音】、あれも【音】と保育者の声掛けに反応してくる子どもたちであった。楽器に触れ始めたら、いろいろな楽器に興味を持ち始めた。パーカッションもいろいろな種類があることを初めて知り、保護者に一生懸命その出来事を伝えている姿を目にした。音楽が流れるとリズムを取り始める子が多くなり、特に0歳児はマラカス等を持ちたがる。演奏に控えめであった子どもたちも日頃から楽器に触れていることもあり、自信がついてきたのか、みんなで演奏するときも堂々と行っている。個々に楽器に触れることも楽しいようであるが、みんなで一つの曲を奏でる方が盛り上がっている。外部から演奏者が来たときは、珍しい初めて見る楽器に興味津々で食い入るように見ている。演奏者の奏でる【音】に魅了されていたのか、0歳児からほぼ飽きる子はいなかった。今回は【音】を作るところまでは発展しなかったため、今後はそれに近いことができるようにしていきたいのと、全園児で一つのものを作り上げ、それを大々的に保護者や地域の方にも発表できる取り組みを考えていきたい。